

# PHRの利活用に向けた実証事業の状況

令和5年11月  
ヘルスケア産業課

# PHRユースケース創出に向けた実証事業について

- 第1回医療DX推進本部(2022年10月)で、経済産業大臣より①PHRユースケースの創出②データ標準化や適切な情報の取り扱いなどの事業環境整備③エビデンスの整理の重要性についてご発言をいただいた。
- 本事業は、医療DXの推進の観点で政府全体の動きと連動し、実施するもの。

## 国民が価値を感じられる新たなサービス（ユースケース）の創出

実証事業を通じて、①医療機関での活用を推進するとともに、②日常生活での活用（小売・飲食・フィットネス等の生活関連産業との連携）によって、新たなサービスの創出を加速化。

※第1回医療DX推進本部資料7（経済産業大臣提出資料）より抜粋

経済産業省として実証事業を通じてユースケース創出を支援  
(令和5年度ヘルスケア産業基盤高度化推進事業(8.8億円の内数))

### ユースケース①：医療機関での利活用

→ 生活習慣病等の治療において、PHR（健診・診療記録+ライフログ）を活用した診療の実現に向けた実証

医療従事者等と相談しつつ、自身の健康増進等に活用



- 実証期間：令和5年6月～令和6年2月末
- 予算：1案件あたり最大7,200万円
- 採択案件  
TIS・インテグリティヘルスケア・Welby・エムティーアイの4社で連携し、医療機関でのPHR利活用に向けた、データ標準化・共有のあり方について実証。

### ユースケース②：日常生活での利活用

→ 消費者接点を多く持つ生活関連産業（スーパー、レストラン、フィットネスなど）でPHR（診療・健診記録+ライフログ）を活用した健康づくりの実証

行動変容等の自己管理をサポート

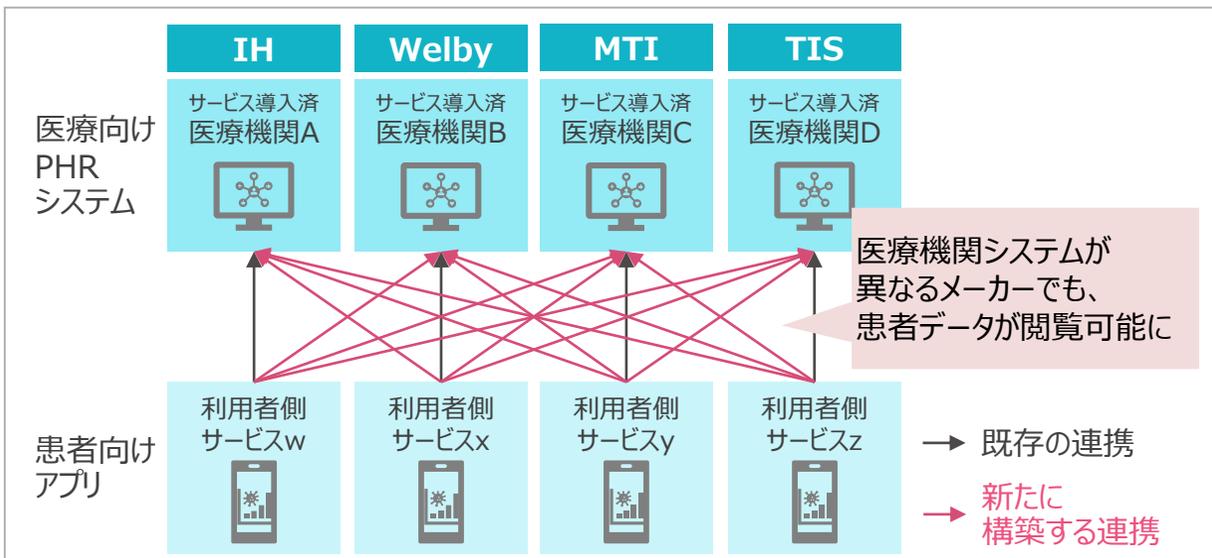


運動不足の改善  
食生活の改善

- 実証期間：令和5年6月～令和6年2月末
- 予算：1案件あたり最大2,500万円(1コンソーシアムあたり)
- 採択案件
  - ① 三井不動産コンソーシアム：PHR活用による商業施設への集客
  - ② カケハシコンソーシアム：処方情報・PHRを連携し、購買を促す。
  - ③ 大林組コンソーシアム：Well-being×PHRによるレコメンド実施

# PHRの医療機関連携に向けたデータ標準化の実証

- 医療向けPHRシステムと複数の患者向けPHRアプリの接続を検証する。
- PHRのデータ標準化・共有が進み、医療現場でのシームレスなPHR利活用の促進を目指す。



### 実施内容

- 初期プロトタイプの実装及び机上検討を通じて、相互接続のあるべき姿を検討しながらデータ標準化・共有の課題と対策を抽出する。
- 臨床現場へのヒアリングを通じて、利用者の意向・ペインポイント<sup>1</sup>と利用者にとっての提供価値を把握する。

- 参加団体：TIS、インテグリティヘルスケア、Welby、エムティーアイ
- 実証エリア：各参加団体と関係のある医療機関・医師

### 現状（ペイン）

- 医療現場でのPHRの活用方法・意欲・環境整備が不十分である
- 例えば、医療向けPHRシステムと患者向けPHRアプリのデータ連携が他社間でできない。

### 想定成果

- 相互連携のあるべき姿に対する現状との差分の整理に注力し、業務面、技術面の課題を洗い出す。
- 必要な仕様、標準化の検討を実施し、課題と対策、優先順位を整理する。

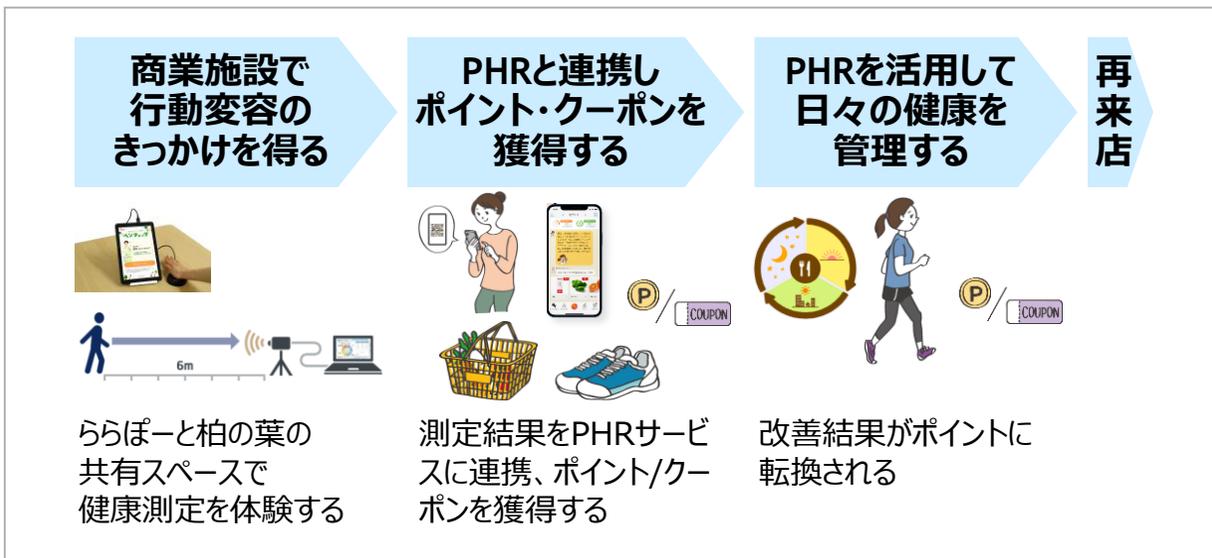
### 将来

- PHRのデータ標準化・共有が進み、医療現場でのPHR利活用の促進が進む。
- 臨床研究への活用や地域医療連携の促進も進む。

<sup>1</sup> お金を払っても解決したいと思う悩みや課題のこと

# 健康測定×PHR利用による行動変容と送客効果の実証

- 商業施設がPHR事業者と連携し、生活者の行動変容と送客効果を検証する。
- 生活者の健康増進と店舗の売上増を同時に実現するモデルとして全国の商業施設への展開を目指す。



**実施内容**

- ららぽーと柏の葉に体験型サービスを設置して健康の気づきを提供する。
- PHRサービスと連携し、商業施設の利用に繋がるインセンティブを提供する。
- 結果として送客となり、更なる商業施設の継続利用とマネタイズにも繋げる。

- 代表団体：三井不動産
- 参加団体：リンクアンドコミュニケーション、カゴメ、アシックス、三井不動産商業マネジメント、UDCKタウンマネジメント
- 実証エリア：ららぽーと柏の葉（千葉県）
- 活用PHRデータ：食事・運動・睡眠・歩数、体重、健康測定情報（推定野菜摂取量、歩行姿勢チェックの参加情報）

**現状（ターゲット・ペイン）**

- ターゲット：30-40代の子育て世代
- ペイン：①栄養バランスを考えた献立づくり、②野菜摂取不足や運動不足

**想定成果**

- 生活者の健康増進と店舗への送客モデルのマネタイズ効果を検証する。
- 次年度以降の協力店舗数やサービス対象拡大の根拠を構築する。

**将来**

- 商業施設の売上増で実施コストを回収する持続可能なモデルを構築し、全国の商業施設に横展開する。

# PHR(処方データ含む)×薬剤師の介入による行動変容と送客効果の実証

- PHR(処方データ含む)×薬剤師の介入による患者（生活者）の行動変容と送客効果を検証する。
- 総合スーパー（以下、GMS）内の他店舗への展開を進め、日常導線上で健康になっていく世界を目指す。



### 実施内容

- 薬局来客時にLINE（Pocket Musubi）友達登録とエイチル上のアンケートを促す。
- 回答結果を基に、薬剤師による健康意識が向上するアドバイスを実施する。
- 在宅期間中にもコンテンツを配信し、商品購入等の購買変容を促進する。

- 代表団体：カケハシ
- 参加団体：大塚製薬、イオンリテール
- 実証エリア：東京都のイオン薬局全店（18店舗）
- 活用PHRデータ：処方箋情報、電子薬歴情報、Pocket Musubiを介した患者情報、エイチル回答情報

### 現状（ターゲット・ペイン）

- ターゲット：薬局に訪問する患者（軽症も含めてほぼ全ての生活者）
- ペイン：医師による診療・処方だけでは生活習慣をすべて把握できず、根本的な健康課題の改善が難しい

### 想定成果

- PHR・処方情報を活用し、患者の健康に関する個別化された情報を提案し、GMS内でのサービス利用を促す。
- 結果として、日常動線上で健康になっていくサービスを検証する。

### 将来

- 同GMSの他健康産業を活用し、食事やエクササイズ等への展開を進める。
- 将来的に地域ネットワークを巻き込んだ展開など幅を広げる。

1 エイチルは、生活者の回答から個別化された健康提案を行うツール。2 Musubiは、薬剤師の作業を効率化する電子薬歴・服薬指導システム。3 PocketMusubiは、薬局と生活者をつなぐLINE上のお薬連絡帳アプリ。

# ウェルビーイング傾向及びPHRデータの活用による意識変容の実証

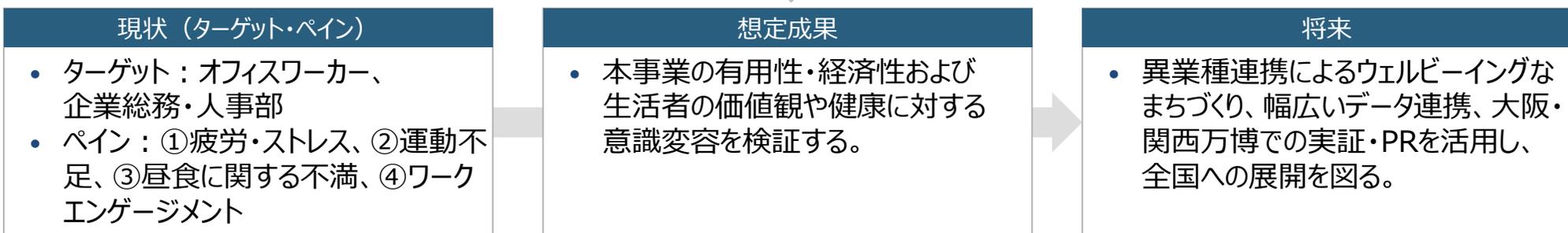
- 『ペルソナ』<sup>1</sup>及び『疲労ストレス傾向』<sup>2</sup>に基づいたレコメンドによる生活者の価値観や意識変容を検証する。
- 大阪・関西万博での実証・PRを活用した実装エリア・サービス連携の更なる展開を目指す。



**実施内容**

- 大阪都心部（中之島エリア周辺）で働くオフィスワーカーにアプリの利用を促進する。
- アンケートで自身のペルソナと疲労ストレス傾向を可視化し、気づきのトリガーとする。
- レコメンドで意識変容を促進する。
- サービス事業者の商品開発・改善や従業員のワークエンゲージメント向上の有用性・経済性も検証する。

● 代表団体：大林組  
● 参加団体：慶應義塾大学、TIS、村田製作所  
● 実証エリア：大阪市中之島エリア（大阪府）  
● 活用PHRデータ：疲労ストレス傾向



<sup>1</sup> 『ペルソナ』は、アンケート回答をもとにユーザの嗜好・行動傾向を5パターンに分類したものだ。 <sup>2</sup> 『疲労ストレス傾向』は、心拍変動の測定による自律神経の活動状態のバックデータに基づく問診から疲労やストレスの傾向を4段階にわけたもの。